

未来投資会議 構造改革徹底推進会合 「企業関連制度・産業構造改革・イノベーション」 会合(雇用・人材)(第6回)	資料2
平成31年1月11日	

# 労働市場のインフラ整備で求め られること

佐藤博樹

中央大学大学院戦略経営研究科  
(ビジネススクール)教授

2019年1月11日

# 労働市場のインフラ整備の課題

- 求人者と求職者の両利用者の視点に基づいた労働市場インフラのシステムの設計を
- 企業の求人条件と就業希望者の求職条件の両者、とりわけ前者の条件変更がマッチングの鍵に
  - 情報流通の円滑化のみではマッチングは成立しない
  - 求人条件と求職条件の変更を促すことがマッチングの前提に
  - 人材活用の仕組みの改革を踏まえ、企業が求める「望ましい人材像」の変更を促すことが必要に
- 非労働力を就業希望者へ転換する仕組みを組み込まないと、就業希望者が減少する時代に
  - 就業希望者や転職希望者のみが活用する労働市場インフラでは不十分
  - 「求職者」の掘り起こし機能の組み込みが必要に（求人開拓から求職者開拓へ）
  - 例えば、「子供が小学校上級生になったら就職しよう」と考えている潜在的就業可能層がアクセスするような仕組みに（子供の教育情報や将来の家計収支シミュレーションのサイトからリンクなど）
- 高卒などブルーカラー職種に従事していた転職希望者をこれまで就業経験のない他の仕事への転職を支援とする仕組みの整備が必要
  - 労働力の現状の構成や今後の産業構造の変化を踏まえた取り組みを

# 労働市場でのマッチングの課題

- 企業の求人条件自体を変更しないと就業者の希望条件にマッチングしない時代に(企業は人材確保できない)
  - 就業者の就業希望に即して求人条件変更を企業に促す仕組みが不可欠
  - 求人条件の何を緩和すれば人材が確保できるかを企業に提示できるシステムを(企業へのコンサルティング機能)
- 同業種&同職種への転職機会が減少する時代に;転職希望者に対して、経験してきた職種でなく、保有スキルに基づいて転職可能職種を提示できることが重要
  - 例えば、転職を希望する60歳代前半のトラック運転手に対して通所介護施設(ディサービス)の送迎担当職(送迎以外に介護サポートも)の仕事提示できるシステムなのか?
  - 転職を希望する小売業の専門店の店長に対して介護施設の施設長の仕事を提示できるシステムか?
  - ⇐これまでに経験してきた仕事をベースに仕事を探しがちな求職者に対して、保有スキルに基づいて就業可能な仕事を提示できるようにすることが大事に
  - ⇐企業に対しては、採用希望職種の未経験者を採用することに対する抵抗感を取り除くための支援が必要
- 就業希望者の就業ニーズの優先順位に応じて、就業可能機会を提示できるシステムが重要
  - 例えば、通勤時間検索>スキル検索>労働時間検索(フル、パート、残業の有無など)>賃金水準検索など優先順位の変更に応じて就業可能な仕事が提示されるシステムか?
- 就業希望者の就業可能機会を増やすことに繋がること<sup>が</sup>わかるように教育訓練機会を提示することが重要
  - 「〇〇を追加的に学ぶことで、〇〇などの就業機会がある」などの情報を提示できるのか?